

# いの流水俳壇

松尾 満津於選

## 「入学」

### 第三子入学したる笑窪かな

植田 紀子

〔評〕むかしは学校に行きたくても、行けない子どもが多かったが、今の時代は誰彼となく進学するような傾向にある、その点明るくはなったが、しかし受験のきびしさは、むしろ昔よりきびしくなっている。この句の入学した子は第三子であるところから、上の二人は既に上級学校に進学を果たしているのだろう。句の微妙なところは「笑窪」である。入学できたよるこびに加えての笑み、この第三子はキット上二人よりすぐれた格式をもつ学校に入学できたのであろう。恐らく上二人が果たせなかった夢を実現し「してやったり」と思うよるこびの笑窪ではないだろうか。そこに見えるものは親の慈愛であり、作者自身の描く自己満足であるうと思えるのである。

### 入学式日和へ吾子を押し出せり

川上こよね

〔評〕句の構成は、小学校の入学式である。平明で内容の見える句、のびのびとした氣息の中に親の姿が浮かぶ「日和へ押し出す」という所作は親か肉親でなけ

れば、できない行為であり而も教師経験のある親を想像する。人見知りする児、それをあげます母親。この句には母親というより寧ろ内孫に対する祖母の姿が気持ちに纏まといつく。

### 父母の手にぶらさがり行く入学児

松岡きよ子

〔評〕両親の手にぶらさがる児は小学校の新入生、若い両親の顔を交互に見ながら、何やら明るい会話が聞こえるような句、如何にも甘えっ子という感じがする。この児が何時になったら独りで、登下校できるであろうか、両親の心配はそこから始まる。さらりと云ってこの句、どこかに諦念の思いが漂っている。

### 制服の太目サイズは入学用

楠目 哲郎

〔評〕昭和一桁頃に生まれた人達の多くは、学校に入学するときの着物、洋服、教科書に至るまで、兄弟の「お譲り」というのが一般的であった。第二次大戦後の、いわゆる団塊時代になって逐次そんな習慣がなくなりつつあるが、子どもの成長は早いので、制服は太目に仕立てるが賢明であろう、然もその他に少子化の問題もあり、一概に決めつけられないのが世相というもの。

### 手を引かれにこにこ顔の入学児

川村 愛

〔評〕入学児の手を引いているのは若い母

親であろう。作者は傘寿を過ぎた老齡であるので、手を引かれているのは孫若しくは曾孫。なんでもないような句であるが、それがかえって作者の日常がよく理解できる。俳句はさり気ない情景の把握があれば理屈はいらない。

入学の荷へまだ何か入れ足らず 岡本とも子  
 入学の服着て見せる末の孫 大川 節弥  
 入学の孫に貰いし老の夢 刈谷 志津  
 入学という子離れのありにけり 川村千因子  
 風を蹴り小石を蹴りて入学す 間 浩太  
 入学や児には勝てぬとうべなえり 片岡 包  
 ややずれて元気な歌声新入生 友草 水月  
 入学児母にまつわり爪を噛む 井上 郁子  
 入学や制服姿頼もしく 竹崎 光子  
 ひらがなのもうすらすと新入生 川村 光子  
 記念本そばを通りて入学す 森岡 照月  
 おはよりの声涙刺と入学児 筒井 眉躬  
 日本晴に始めの一步入学式 立木ゆう子  
 おさがりを嫌だと言へず入学す 中野 好子  
 入学や校門くぐる子の笑顔 筒井 文  
 生甲斐を貰う入学式の日や 藤田 里  
 いとけなき背に期待や入学す 津田 久美  
 元氣よく入学したと孫の声 渡辺万利子  
 入学やこのめずらしき青い空 松尾満津於

次 題 「当季雑詠」  
 締め切り 毎月15日

### 投句先

吾北教育事務所 上八川甲2010

☎ 867-2133

## 町営住宅入居者募集のお知らせ

いの町営住宅の入居者募集を次のとおり行います。

### ▶ 入居資格

現在、いの町に居住又は勤務されている方で、申込時に配布する手引き等の入居資格に該当する方。

### ▶ 申込書配布期間及び受付期間

6月1日(金)～6月15日(金)まで  
 (ただし土・日曜日を除く。)

### ▶ 町営住宅の概要

|      |              |
|------|--------------|
| 団地名  | 小川荘          |
| 場所   | いの町小川新別935番地 |
| 構造   | 準耐火2階建て      |
| 間取り  | 3DK          |
| 募集戸数 | 1戸           |
| 建設年度 | 昭和55年度       |

### ▶ 問い合わせ

総務課 ☎ 893-1113  
 吾北総合支所住民課 ☎ 867-2300  
 本川総合支所住民課 ☎ 869-2112